

畜産環境学 (2単位)

担当者氏名 祐森誠司・池田周平・押田敏雄

◆学習・教育目標

畜産業は家畜を飼育管理することを通じて動物質タンパク質（食物・衣類等）を生産することを目的としており、家畜の飼育管理環境・条件は生命活動を営む上で適正に保たれる必要がある。また、社会的に産業として貢献する上で地域環境さらには地球環境に負荷の生じない基準の遵守が求められている。この考えを発展させ、持続型の畜産に結びつけるうえでの知見を体系的に理解することを目的とする。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

生産科学 _____ 飼育管理条件 _____ 糞尿処理 _____ 環境負荷物質 _____
 持続性 _____ 資源利用 _____ 土地利用 _____ 放牧強度 _____

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	授業のねらいまたは準備しておく事項
第 1 週	緒論（一）	適正な環境とは何か？ フリーディスカッション	環境学を考える概念について
第 2 週	緒論（二）	身近な改善の重要性	畜産領域における環境との調和は人間生活の基盤となる
第 3 週 ～ 7 週	生産に適した環境の調整	生産に適した飼育環境の調整はできているのか？ 敷料の扱い方について	生産効率に加えて家畜福祉の概念も取り込む
第 8 週 ～ 12 週	排泄物の処理・低減	環境負荷物質の低減処理方法として、pre と post の処理	動物飼育に絶対必要な作業の目的意識と処理の多様性・応用
第 13 週 ～ 15 週	生産と環境の調和	生産による環境負荷を削減し、メリットを伸ばして環境保全に転換	物質循環を中心とした沙漠化の阻止方法（中国ゴビ沙漠の緑化を事例として）

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）
 適宜、資料は配付する

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）
 畜産環境保全論／押田敏雄・柿市徳英・羽賀清典／養賢堂（2012）

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

レポートの提出等により評価する

◆その他受講上の注意事項
